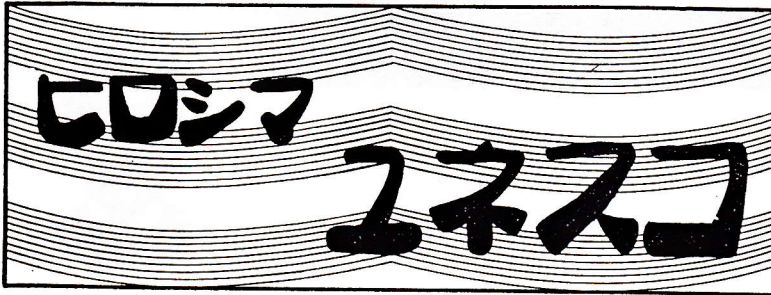


### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



二十一世紀に生きる子どもたちへ大人の責任を

## 「国際児童年」とユネスコ活動に思う

広島県ユネスコ  
 連絡協議会会長 内 海 巖



### 国際児童年 (International Year of the Child・IYC)

児童権利宣言採択二十周年記念として、一九七九年の一カ年を世界中の子どもの福祉を高める活動を推進することを主眼として定められた。わが国でも国際児童年事業推進会議をはじめ、三十数団体民間協力活動計画がつくられ、「わが子への愛を世界の子どもにも」をテーマとして、各地において諸活動が展開されることになった。二十一世紀に生きる子どもたちにとってのよき世界を残すかは、大人の責任である。

78核兵器完全禁止・被爆者援護・世界大会・広島大会をNGOの一員として協力した広島県ユネスコ・広島ユネスコ協会は、ユネスコ活動としても他に類をみない存在として全国各ユ協から注目されるようになった。昨年四月広

島ユ協青年部主管第十二回西日本ブロック研修会を広島で開催した際、原爆を原点とした平和へのとりくみは広島青年部のユネスコ活動として独自の深い問題意識に根ざすものとして、各青年部諸君に深い感銘を与えた。十月、岐阜市で開かれた第三十四回ユネスコ運動全国大会でも、戦争体験をもった大人が、被爆体験の継承をおして子どもたちに平和の尊厳を教えることは今こそ緊急の課題であるとの、広島ユ協常任理事高橋昭博氏や広島青年部諸君の発言は各地ユ協会員の賛同と共鳴を得たのであった。本年七月、福島県国立磐梯青年の家を会場とする全国高校ユネスコ大会は記念講演講師に高橋氏を迎えて「ヒロシマ、ひとりからの出発」を学ぶことになった。テーマは「国際理解——身近かなところからの出発」である。

第十八回ユネスコ総会の勧告「国際理解、国際協力および平和のための教育並びに人権および

### 内 海 巖

基本的自由に関する教育」は迫まりくる人類の危険は核兵器だけではなく、食糧・資源・エネルギー・人権・人種差別・植民地主義などが南北問題と複合して人類の生存をおびやかすことを指摘し、国際教育の実施の必要を各国政府に勧告したものである。しかし、第二十回総会ではユネスコが人権及び平和研究を重視することは評価するがその企画・実施にあたっては各国の政治的・社会的立場をよく考慮して、政治的対立を招くことのないようにと、慎重な対処を求める声が強く出された。したがって、国際教育ないし平和教育については各国の見解を調整するための世界的規模の会議が検討されることも考えられる。日本におかれた国連大学が運営の危機にあり、ユネスコ及び各国の支援もこの総会で討議された。

以上に述べたさまざまな動向を背景として、国際児童年を迎えるに当たって、広島県下の各

ユ協ならびに青年部は一九七九年度計画をどのように考えるべきであろうか。

「すでに世界の都市を一つ残らず七回以上も破壊するにたる核兵器をもっているにもかかわらず、開発途上国、開発先進国の双方において、いぜんとして一日三個の割で核兵器が増えていく。」——これは、昨年六月ユネスコで開かれた円卓会議「私たちは、子どもたちにとってのよき世界を残すべきか」で、国連事務副総長・国際児童年特別代表アルダバ・リム氏の発言の一部である。それだけではなく、高い児童死亡率、栄養失調、文盲(不就学)など、世界の子どもたちの生存と福祉をおびやかす危機的状況は今や慢性化しており、その対策は最大の課題となっている。

さし当たってわれわれが身近かなところでできることは、ユネスコ・コーアクション(従来のギフト・クーボンにかわるもの)に参加し、献金で救済活動に協力することである。東京の日本ユネスコ協会連盟事務局が各位の協力を待っている。二月十七・十八両日中国ブロック・ユネスコ活動研究会は、国際児童年の活動計画を討議する場である。各ユ協からの参加を切望する。

# 平和教育で子どもたちの幸せを



広報担当  
常任理事  
高橋昭博

## 第34回「ユネスコ運動全国大会」に出席して

いまや、日本の人口は戦争を知らない若い世代が半数以上を占めるに至っている。そうした中で、「戦争体験の風化」が、心ある人々のあいだで深く憂慮されている。私は、いまこそ戦後に生まれた若い世代に戦争のおそろしさ、おろかさを正しく伝えることが急務であると考え、一人の原爆被爆者として、またヒロシマユネスコマンとして若い世代に積極的に私自身の軍国時代の生活と被爆体験、そして、それが現代の政治的、社会的状況にどうかかわっているのかを、卒直に語り続けてきた。

ユネスコの会員綱領の中には「心の中に平和の守りを固めよう」という一章があるが、広島

に住むユネスコマンは、この会員綱領にもとづき、「ヒロシマの心」をふまえ、卒直垂範して新しい平和運動を推し進めなければならぬと思っている。中でも、戦争体験・被爆体験を継承する平和教育と国際理解のための活動には、実は、ユネスコこそ先頭に立たなければならぬのではないかと、私は強く思っている。



国際交流担当  
常任理事  
深瀬文恵

### 明日に生きる子どもたちとともに考えよう

昨年十月七日、岐阜市で開かれた第三十四回「ユネスコ運動全国大会」に出席した私は、大会テーマにもなっている「今こそ地球市民の連帯を！明日に生きる子どもたちのために」、私たち大人が、軍拡競争、社会的不公平、人権侵害のはこびる世界から子どもたちを解放し、子どもたちの平和と幸せを勝ちとる努力をばらわなければならぬことを痛感した。

何かを求めてユネスコ全国大会に参加する。今回で参加三年目である。岐阜に到着したのは一日目の日程がすべて終わってしまった五時過ぎ。青少年の家庭「こだま荘」に急ぎ、青年の集いに参加した。一般参加者を含め百人以上の集いであった。全

何んにもならない。いまこそ戦争を体験した大人が、その体験を伝え、平和の尊さを子どもたちに正しく教えて行くことが大切だ」と強調した。高崎市ユネスコ協会の佐藤事務局長は、これに共鳴され、「ユネスコ活動は、ヒロシマ・ナガサキの心をふまえて行動すべきだ」と激励され、私は大きな感動を覚えた。

露木賞受賞の浜松、富山、長崎の各ユネスコ協会青年部の代表者から、受賞の対象となった活動の報告があった。活動する相手の気持ちをじゅうぶんに研究し、アイデアを着実に実践に移した熱心な活動報告に、勇気づけられる思いがした。

た。青少年の自殺、非行の問題を単にあはくだけではなく、みんなの問題としてとらえ、大人も自ら学ばなければならぬ点。日本の教育に欠如している点、足りない点を補い、ひずみをいかにして改めてゆかねばならないか。また、教育の原点とは何なのかとの卒直な疑問も投げかけられた。

各地のユネスコ紹介の後、初級者と上・中級者にわかれて分科会が行なわれた。上・中級者の分科会では、国際紛争解決の方法についてユネスコ会員としてどう考え説明してゆけばよいのか、また、組織づくりの問題と関連して、ユネスコに入った動機などを話し合い、とても短く感じた一時間半であった。

二日目は教育委員会Bに参加し

中国ブロック・ユネスコ活動研究会を開催  
とき／二月十七日(土)午後一時から九時まで。二月十八日(日)午前九時から十二時まで。

ところ／白鳥会館(市内西白鳥町)

議題／国際児童年に当たっての取組み、三十五回ユネスコ全国大会への取組みなどについて。

# 意義深い「世界の日本の日本をを考える」高校生の集い

文化担当  
常任理事  
加藤 朗 一



関係機関の後援を得て、十一月十二日、広島平和記念館において開催した。

青少年、中でも高校生に対し、その国際理解の精神を深めることは、民間ユネスコ運動の指標の一つであり、協会にとっても大切な課題であると思われる。

年度当初の理事会においては、この問題について協会の五周年事業の一つとして取り組むよう内海顧問からご提案があり、有意義な企画として実施に移すことが決められた。

このことは、全国的にも例の少ないことなので、数度の実行委員会を持ち、企画の内容検討や諸準備を進めていった。

行事の主題を「世界の中の日本を考える」高校生が集いと、広島平和文化センターとの共催

## 「広島ユネスコ協会」結成5周年記念に当たって

### 青年部をユネスコ発展の中核に



理事  
元事務局長  
古田 碩 永

当日の行事内容は次のとおりである。講演「国際関係のとらえかた」広島大学平和科学研究所センター栗野鳳教授。ゲストとして「日本の印象」大阪神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事ウィルヘルム・ロウエル博士。映画「生き残る道」国連製作。話し合いの会、ゲストに対する質疑応答、主題に基づく会員および高校生の自由な意見交換。参加高校生の数は広島市および周辺の八高校から五十五名、

わずか十名ならずの有志が、数回の学習会、準備会を重ねて四十八年六月二十三日、キリンビヤホールにおいて、賛同者約六十名の出席者を得て、広島ユ

会員も混じり盛会であった。話し合いは協会青年部の司令により次の五名の高校の先生がたが各グループの助言者として指導に当たられた。五日市高校助田忠三、広大附属高校太鼓矢晋、第一女子商業高校深瀬文恵、某町高校藤井正一、安芸高校山根繁徳。各高校の事業紹介の後、講師およびゲストの講話に関連して活発な意見が述べ合われた。短い時間の中にも明日の日本をなう高校生のこの問題に対する関心の深さが示され、得るところがお互いに大きかった。

ネスコクラブが発会した。はたして何名の参加者があるか心配しながら準備を重ねてきたことは、いまは良い思い出である。その後、広島ユネスコ協会として発展し、結成五周年を迎えたことは、結成から二年余の間、事務局のお手伝いをさせていた

広島県における高校ユネスコクラブの活動は、広大附属高校に多年にわたる質の高い実践があり、全国でも著名であるが、その他は低調で若干の学校にその萌芽が見られる程度である。国際平和文化都市広島には、外国からの留学生の数も多い。これらの留学生と高校生との交流は国際感覚を高め、お互いの理解を深めるうえに役割を果たすであろう。協会の今後の課題である。

だいた私にとっては、感慨ひとしおである。会場を転々としながら、ときには、重い映写機をかつぎ、曲りなりにも、毎月一回の定例会を行なってきたこと、フランスのユネスコ青年受け入れのため、民泊先、歓迎レセプション

の準備、そして、その場での協会への昇格への根まわしをしたことなど、思い出は尽きない。なかでも、いまや広島ユネスコ協会の活動の中心として活躍している青年部の発足のお手伝いをしたことは、最も印象に残るものである。

五周年を迎えたいま、これからも広島ユネスコ協会は、青年部を盛りたて、それを協会発展への足がかりとすべきだと、しみじみ思うのである。



恥しいことですが、昭和二十五年頃ユネスコということばを活字でみてなんだろうと思ってはみましたが、深く気にもとめてみませんでした。それから数年経ったある日、北京大学教授であった林語堂氏がユネスコ文芸部長であり、「対位法」「ガザに盲いて」などの作者として有名なオールダス・ハックスリーの兄ジュリアン・ハックスリーがユネスコ初代事務総長であ



### 78 国連軍縮週間行事に参加

さる十月二十四日から「国連軍縮週間」に、広島でもその目的達成のため各種行事が催された。当協会および青年部もこれに積極的に参加した。

昨年五月から六月にかけて開かれた「国連軍縮特別総会」は、毎年十月二十四日（国連創設の日）から一週間を「軍縮週間」として定め、全世界の人々に平和のための行事を呼びかけることを決議した。広島では、この

## ユネスコと私

深崎敏之

ることを知って関心が強まりました。しかし、ハックスリー家はイギリスのきわめて知性的な家柄であるから、その活動を理解するのはかなり困難であると思ひ遠ざかってしまいました。私

をとりまく環境も日本の経済復興ということで、ユネスコに理解を示そうとする人もいませんでした。ところが昭和三十年も過ぎ去ろうとする頃から、社会奉仕と国際理解ということがか

なり強く叫ばれ始めました。東京ではオリンピック大会が開かれ、大阪では万国博覧会が開かれました。広島でも国際理解教育に関するいろいろな行事が私の耳にも入ってくるようになり、私もできるだけそれらに参加するようになりました。とくに、昭和四十四年、学生運動が激しくなり始めた頃、広島大学に英文学を教えにこられたコックル氏は、自分がいろいろな

ルにおいて、演劇センター飛行船によるぬいぐるみミュージカル「ピーターパン」が、当協会後援のもとに上演された。何人かの役員が観賞したが、「大人も子どもも楽しめた。とくに、子どもたちには楽しさの中にも教えられるものがあった大変有意義な催しであった」と、ある役員は話していた。

青年リーダー研修会に山田君、池村さんを派遣  
一月十五日から東京で開かれた第三回青年ユネスコ中央リーダー研修会に、青年部の山田洋一君、池村佐知子さんの二名が派遣された。

「軍縮週間」を成功させるため、各界各層の団体、市民、多くの平和団体が一致団結して実行委員会を結成し、期間中、各種行事を開催した。

国連軍縮週間行事は、十月二十四日の問題別討論集会「平和教育」を皮切りに、二十五日「被爆者援護」、二十九日「全面軍縮・核兵器完全禁止」と各問題別に続き、同二十七日には、県民集会所が平和行進に引き続いて市公会堂において開催された。県民集会所において立った荒木広島市長（当協会名誉会長）は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の

この研修会は、日青ユ協が各地青年ユネスコのリーダーおよび次期リーダーの実力養成を目的に毎年開いているもので、研修は実践にそくし、レポート提出も課するなど、なかなか厳しいものであった。

山田君、池村さんの研修後の活躍が期待される。

国連軍縮週間行事は、十月二十四日の問題別討論集会「平和教育」を皮切りに、二十五日「被爆者援護」、二十九日「全面軍縮・核兵器完全禁止」と各問題別に続き、同二十七日には、

中にも平和のとりでを築かなければならない」とユネスコ憲章を引用し、「巨大国間のエゴによって、人類の願いと逆逆軍拡核兵器開発が進む中で、ヒロシマの心を具現化するためには、市民ひとりひとりの中にイデオロギーにとらわれない真に平和を愛する心を培ってゆかねばならない。そして、それをさらに国を越えた連帯の輪としてゆかねばならない」と述べられた。

永井会長が、一月八日から二週間にわたって渡米した。これは、ハワイの東西センターでの会議に出席するためで、東西文化の研究に実績のある同センターの最新の情報や話題が注目されるところで、永井会長の帰広報告が期待される。

また、「全面軍縮・核兵器完全禁止」討論集会では、栗野鳳広大平和科学研究センター教授から、「国連軍縮総会最終文書は、ユネスコにおける軍縮に関

初めの「国連軍縮週間」ではあったが、このように各方面からユネスコの軍縮に果たす役割が要請され、平和運動におけるユネスコ精神の重要性が指摘されたことは、今後の広島ユ協の活動が問われるものとして、われわれは大いに心しなければならぬことを痛感した。

永井会長が、一月八日から二週間にわたって渡米した。これは、ハワイの東西センターでの会議に出席するためで、東西文化の研究に実績のある同センターの最新の情報や話題が注目されるところで、永井会長の帰広報告が期待される。

また、「全面軍縮・核兵器完全禁止」討論集会では、栗野鳳広大平和科学研究センター教授から、「国連軍縮総会最終文書は、ユネスコにおける軍縮に関

初めの「国連軍縮週間」ではあったが、このように各方面からユネスコの軍縮に果たす役割が要請され、平和運動におけるユネスコ精神の重要性が指摘されたことは、今後の広島ユ協の活動が問われるものとして、われわれは大いに心しなければならぬことを痛感した。

永井会長が、一月八日から二週間にわたって渡米した。これは、ハワイの東西センターでの会議に出席するためで、東西文化の研究に実績のある同センターの最新の情報や話題が注目されるところで、永井会長の帰広報告が期待される。